

第10回 枚方市教育委員会協議会 会議録

開会	平成28年10月26日午後2時12分	閉会	平成28年10月26日午後2時56分		
日程番号	案 件				
1	枚方市立総合スポーツセンター使用料に関する規則の一部改正について				
構 成 員	教 育 長	奈良 渉	構 成 員	教 育 委 員	神田 裕史
	教 育 委 員	吉村 雅昭		教 育 委 員	谷元 紀之
	教 育 委 員	橋野 陽子		/	
説 明 員	管 理 部 長	君家 通夫	説 明 員	教育環境整備室課長 (教育施設保全担当)	黒川 清
	学 校 教 育 部 長	若田 透		教育環境整備室課長 (学校規模等調整担当)	兼瀬 和海
	社 会 教 育 部 長	中路 清		学 校 給 食 課 長 (副参事級)	前村 卓志
	管 理 部 参 事	俣野 浩一		児 童 生 徒 支 援 室 課長 (生徒指導担当)	狩野 雅彦
	管 理 部 参 事 兼 次 長 兼 教育環境整備室長	益田 正治		学 務 課 長 (副参事級)	早崎 由子
	管 理 部 参 事 兼 次 長	森澤 可幸		教 育 推 進 室 教 育 指 導 課 長	位田 真由子
	学 校 教 育 部 次 長	高橋 孝之		教 育 推 進 室 教 育 研 修 課 長 兼 教育文化センター館長	喜多 一友
	学 校 教 育 部 次 長 兼 教育推進室長	花崎 知行		社 会 教 育 課 長	奥野 美佳
	社 会 教 育 部 次 長	片岡 政夫		放 課 後 子 ども 課 長	精木 孝充
	社 会 教 育 部 次 長	山口 俊也		文 化 財 課 長 (副参事級)	鈴江 智
	社 会 教 育 部 次 長 兼 中央図書館長	藤丸 知子		ス ポ ー ツ 振 興 課 長	五島 真紀子
	児 童 生 徒 支 援 室 長 兼 課長(支援教育担当)	田辺 元美		中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(サービス担当)	松井 一郎
	管 理 部 副 参 事	寺西 光治		中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(企画担当)	中道 直岐
	教 育 総 務 課 長 (副参事級)	小菅 徹		教 職 員 課 主 幹	西村 英理
	教育環境整備室課長 (教育施設整備担当)	藤井 禎人		記 録	教 育 総 務 課 係 長
				傍聴の人数	2人

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

まず、委員それぞれの活動について、所感などを報告したいと思います。

それでは、私から報告をさせていただきます。

私からは、全国学力・学習状況調査の結果の公表のことについて、お話をしたいと思っています。

先般、文部科学省の処理のミスから、ほぼひと月ほど遅れまして、平成28年度の全国学力・学習状況調査、いわゆる全国学テですね、この結果が公表されたわけですが、本市も先日、ホームページにおいて結果を報告しております。皆さんもぜひごらんになっていただきたいと思っています。ホームページをごらんいただきますと、これまでの結果公表も合わせて掲載されておりますので、比較して見ていただければと思います。

これまで、本市では全国学力・学習状況調査の結果につきましては、具体的な設問ごとの成果と課題に着目して、各学校の授業改善に生かすことを重視した分析結果を公表してまいりました。

また、子どもたちの生活習慣と学力が相関関係にありますことから、保護者や市民に全国学テの児童生徒質問紙からわかった子どもたちの生活習慣の課題を明らかにして、協力をお願いしてきたところがございます。しかし、公表している内容が保護者や市民にとっては大変わかりにくいというような声もあったことから、今年度はこれまでよりもよりわかりやすく保護者や市民に伝えるために、これまで公表をしてきませんでした各教科における平均正答率であるとか、平成19年度に初めてこの全国学テが実施されたわけですが、全国平均正答率との対比の経年変化がわかるようなグラフも合わせて公開をしております。この公開によりまして明らかになったことは、本市の小中学校におきましては、全国学テが開始された平成19年度が最高で、その後、平均正答率が下降の一途をたどっていて、平成26年度には底になっているということと、平成27年度からは少しずつ上昇の兆しが見えてきていたということとでございます。ちなみに、この上昇のきっかけは、底にあった平成26年度に、本市が大阪府教育委員会から学力向上重点市町村に指定をされ、学力向上への取り組みの強化を指導されたことが契機となっております。

また、中学校では、平成27年度に平均正答率が急上昇をしておりますが、これは高校進学の内申点に学テが反映されることとなったことで、生徒が刺激をされておりました、この時は無回答率も急減しております。つまり、生徒がこれまで以上に真剣に学テを受けたと思われれます。本年度は、内申点への反映がないということから、また若干下降してきております。

このように、本市の小中学校の平均正答率の向上は、大阪府の指導や高校入試の内申点に加味されるといった外からの刺激を受けた結果とございまして、まだまだ各学校の学力向上への取り組みが定着しているとは言いがたい。また、課題も山積していると、このように思います。

今年度は、これまでは全国学テの結果が当該教科であるとか、当該学年などの一部の教員だけのものとなるような、そういったきらいもありましたことから、全ての小中学校で、全国学テを教員間で共有していただくために、全国学テの設問を全ての教員が解く時間を各学校で設定していただきました。全国学テを教員が共有する機会をつくってもらったということとでございます。今回の全国学テ結果につきましては、新聞紙上でも公表されておりますが、都道府県別の平均正答率を比べてみますと、上位層の府県と下位層の府県の差が過去の結果よりも縮まってきていま

す。このことから、文部科学省では、学力の底上げが進んでいると、このように分析をしています。これまで成績下位層にあった県が、成績上位県の取り組みを学び、取り組みを取り入れてきたことが底上げの一因と考えられています。

本市におきましても、積極的に上位層の府県を視察して、取り組まれている様々な好事例から学んでいく必要があるかなと思っています。本市では当面、学力向上の取り組みで重視しなければならないことは授業改善でありますし、家庭学習の定着である。こういったことから、各学校にはこの2点について重点的に取り組んでいただくように指示をしているところであります。

小学校におきましては、研究授業を校内研に位置づけておりまして、一定教員の授業力の向上に資するものもあろうとは思いますが、中学校の授業改善への取り組みには課題が大きいものがあります。学力向上に特化した校長面談を、11月の2日から実施する予定にしております。各学校が学力向上への取り組みの進捗状況であるとか、あるいは課題成果も、校長先生から直接お聞かせいただく予定でございます。

また、校長先生方には、本年度のゴールをどこに設定して、これからどのように取り組みを推進させていくのかということについてもお聞きしたいと、このように考えているところでございます。

今回のこの全国学力・学習状況調査の結果を各学校で細かく分析をしていただいておりますが、学校を挙げた学力向上の取り組みが今後されていくことを教育委員会としても注意深く見守ってまいりたいと。また、支援をしていきたいと、このように思っているところでございます。

以上で報告を終わります。

それでは、続きまして、吉村委員、報告をお願いします。

○吉村委員 10月は盛りだくさんで参加させていただきました。

10月2日に、樟葉北小学校の運動会、それから14日には、先ほど教育長から話がありました全国学テの臨時校長会にも参加させていただきました。おそらくこの臨時校長会に参加させていただいたのは、知る限りは、私が来てからは初めてだったと思います。それから15日は、枚方市の追悼式、16日は、小学生陸上競技大会に参加させていただきました。

先ほど教育長が言われておりましたが、全国学テ等の新たな示し方ということで、保護者や、あるいは市民の皆さんが非常に関心の高いものがホームページでアップされているということ。そのアップする資料の出し方も含めて、より見やすくわかりやすく丁寧にというところで、教育委員会の担当者の皆さんがすごく工夫をされまして、今までにない形の公表にされたことに対して、非常に頑張っていたという気持ちを持っております。保護者や市民の方々はその辺の見える学力といますか、そういうところには非常に関心が高い部分があります。その後どんな形で子どもたちがフィードバックをして、それを次につなげていくということ、単にやりっ放しではなく、この結果を踏まえ、学校の中で授業改善を含めてどうやっていくのかということが生徒たちの今後に直結すると思います。

以前から、学力の捉え方については、目に見える学力、テストの成績等が出るものというのが一般的に学力ととらわれている部分が保護者や市民の方に多いと思うんですけども、実際には目に見えない学力が合わさって、総合的な学力ではないかなということを常々考えております。

例えば、自尊意識をしっかり高めて、自分自身を大切にすると同時に、他人への思いやりとか優しさとかが合わさって初めて総合的な学力がついていくのではないかということ常々思っておりますので、これは単にペーパーテストではなくて、学校でそれぞれ取り組まれている人権教育も含めて、枚方がかつてから大事にしてきた内容を、よりブラッシュアップしていくような形でお願いしたいというのが、この学テに関しての現在の私自身の感想です。

それから、小学校の運動会は朝から最後まで見させていただきました。校長先生から、ぜひ組体操を見てほしいということもありまして、しっかり見させていただきました。

子どもたちが各競技、種目も含めてですけれども、非常に自主的にいろんなことを考えながら運営をしていたなど。先生方が主になって、ああしなさいこうしなさいというのではなくて、高学年を中心に子どもたちが運営をしていくということがすごく定着しておりまして、すごく感動しました。組体操等について、新聞紙上その他の中で話題になって、事故等における報道がひどく大きくなりました。その中で安全性ということを試行錯誤しながら、全面禁止にしている市町村、自治体もあるということですが、実際に現場で見させていただいた中で、すごく工夫をされてるという気がしました。単に組体操だけという従来型のものではなくて、そのものに至るまでの演出、例えば行進で交差をしながらクロスしていく。練習しないと難しいんですけど、そういうものを中に入れて、そして最後のところで組体操が行われると。おそらく安全面もかなり考えられまして、メインを上に積んでいくというものにしまして、その横にも比較的安全な形で見せていくということを先生方が工夫しながら、安全面に最大に配慮をしながら、なおかつ子どもたちの満足度を高めていくためにということとされていて、非常に感動しました。一生懸命やって、できた時の子どもたちの笑顔ですね。数段積んだ後に、正面に向かって顔を上げた時のキラキラした笑顔は思わず涙が出るぐらい感動をしました。今後、どのように変化していくかはわかりませんが、ぜひとも積極的に、心と体を育てていくという部分も大切にしながら、先ほどの学力も含めて、トータルの総合的な学力を高めていくということを、ぜひ枚方でも、また我々も見守っていきたいと思いますし、応援していきたいと思っております。

以上です。

○奈良教育長 橋野委員、よろしくお願いします。

○橋野委員 今回、私は、津田南小学校の運動会を見学させていただきました。枚方で一番多い児童数の小学校の運動会ということもあり、楽しみにしておりました。児童数が多いということは、その保護者の方も多く、学校の敷地内はレジャーシートでいっぱいになっていました。児童が運動場へ移動する時も誘導がとても大変そうでした。運動会が始まり、エール交換は迫力があり、とても格好よかったです。徒競走では、前者がゴールする前に次の子がスタートするという、先生のすばらしい連携プレーがありました。児童数の多い学校ならではの配慮だと思いました。5年生の南中ソーランは、クラスごとの手作りの旗がなびき、力強い踊りも見せていただきました。

16日には、枚方市小学生陸上競技大会があり、自分の子どもが出場している時とはまた違った視点から拝見させていただきました。大会新記録が次々に出て、皆さんすばらしい成績を残されました。走っている時のりりしい顔とは違い、表彰状をもらい、メダルをかけてもらう時の表情は小学生のとてもかわいらしい顔になっていました。スタートの時に靴が脱げしまったけれど最

後まで頑張って走り切った子、足を痛めテーピングを巻いて走った子、みんなそれぞれ頑張った一日になったように思いました。

次に、21日に、授業の達人養成講座に、神田委員が講師で出られるということで見学させていただきました。14時半からということもあり、先生方もお忙しいのか、初めは少なかったのですが、終わるころには27名の先生方が受講されていました。指導者の経験をもとに濃い授業、内容、方法を考えるといった指導案について、つかむ、見通す、考える、まとめるといった授業づくりの指導観、授業における指導の工夫、教材の意味、児童のつきたい力を踏まえての指導のポイントを考え、普段の授業に生きる指導をされていました。子どもたちに、自分の考えを表現する、自分で説明できるように指導していくといった、社会的に必要なこともしっかり指導されていました。終わってから、神田委員の周りには先生方が集まり、質問されていました。授業の達人ということもあり、意欲のある先生方が集まっているのだと感じました。もっとたくさんの先生方に聞いていただきたいかのように感じました。

以上です。

○奈良教育長 神田委員、お願いします。

○神田委員 私も、10月2日は、藤阪小学校の運動会、16日は、小学生陸上競技大会ということで、それぞれの子どもたちの体力をつけ、また仲間とともに頑張るといふ、そういうすばらしいそれぞれの演技を見せていただきました。

今日は、先ほど教育長等の話がありましたけれども、全国学力・学習状況調査についてお話ししたいと思います。

10月14日に臨時校長会があり、先ほど吉村委員からありましたけれども、教育委員全員が出席いたしました。その内容は、17日に、枚方市の児童生徒の今年度の学力・学習状況調査について、ホームページで公表されるということで、事前に校長に説明するという趣旨の会議でありました。これについては、先ほど説明もありましたように、今年度から全国水準で学習指導要領の内容がどの程度習得できているかという観点から、それを踏まえて、平均正答率、また平成19年度からの全国平均正答率の対比結果を公表されたわけですが、枚方市のこの児童生徒の平均正答率や経年比較、また無回答率を、大阪府や全国と比較することによって、より成果とか課題が見えてきたということもありますし、これを今後さらに生かす必要があると思っています。この経年比較については、先ほど教育長も述べられたように、平成26年度が全国平均よりも大変厳しい状況であったと。特にこの平成26年度が小中学校は同時に低くなっているということで、私も驚いたわけですが、これを受けて、府のいろんな指導を受けた中で、少しずつ上昇傾向にあるというわけです。

今年度公表された経年比較をずっと見てみますと、今年の小学校の国語Bは全国をわずかに下回っていました。そして、算数Bは上回っておりますけれども、0.3ポイントほどしか上回っていないということで、平成25年度から見ますと、このBについては下降傾向にあるということですね。A問題のほうは、技能面でよく見える学力の基礎値だと言われております。B問題のほうは、いわゆる思考力、判断力ということで、見えない学力ということでよく言われる範疇であると思っております。ここのところが小学校、中学校とも課題であるといえると思っております。中学校については、

少し昨年度よりも下降傾向にありますけれども、国語がやはりA、Bとも全国に劣ってるというようなところで、今後この経年変化、また今年度の分析を踏まえて、再度その取り組みを見直す必要があると思っています。

1点目は、各学校の取り組みについてです。各学校の取り組みを考えてみますと、この各学校が市の経年変化を踏まえて、自分の学校の経年比較をしっかりと表してみて、何が原因で上昇し下降してるのかというあたりを学校は知る必要があると思います。校内研究の実施状況とか、学習規律の定着度とか、また生徒指導上の問題とか、その他の変化の要因等がいろいろあると思いますので、学校が取り組んだ上での上昇なのか下降なのか、その辺のところをやはり分析しておくことが必要であると思っています。これについては、取り組みの参考として、全体概要に今年度の教育委員会が示されているような今後の取り組みの、先ほど教育長が言われた授業改善と家庭学習の定着ということがあろうと思います。このあたりを積極的に取り組んでいただきたいと思っています。

ただ、過去の取り組みの状況を言いますと、中学校の取り組みが特に授業改善では課題であると思っています。校内の研究授業等とか、教科部会とかの状況をいろいろお聞きしていますと、まだ少ない状況であるということです。ただ、大阪府下とか、他府県の中学校では、こういう教科部会、または研究授業が行われるという報告をよく聞きます。

先週、先ほど橋野委員から紹介していただきました、21日の授業の達人養成講座で話をさせていただいたわけですが、この講座は枚方市の人材を育成する視点ということで、11年を迎えているわけですが、当日は27名だったんですけれども、30名の受講対象者で、中学校の教員が3名、小学校は27名と、これがずっと続いているということで、講座のあり方も検討の余地があるかわかりませんが、この状況がやはり今の中学校の現状を顕著に表していると思います。こういうことを含めて、校内外の研修を中学校、小学校もちろんそうですけども、受けとめて改善していくことが大事だったと思っています。

2点目は、他の都道府県や市町村の取り組みを、今枚方市もいろいろやっておりますけれども、参考になるものは取り入れたらいいんじゃないかと思っています。

読売新聞に、学力が向上した都道府県の事例ということで5件ほど紹介されていまして。簡単な紹介でしたが、石川県では結果を分析して、教員専用サイト指導の改善ポイント等を共有していると。全教職員。福井県では指導力のある教員約200人を授業名人に認定して、効果的な指導を広めていると。このあたりはお金がそうかからないと思いますね。

また、小学校5、6年生での教科担任制。これは福井県でやっています。これはかなり予算的な措置がいます。

香川県も同じような授業改善の五つの視点を示しているということです。

沖縄県では、優れた教諭を授業改善アドバイザーに認定しています。これは福井県とよく似たシステムですね。そして、人事交流による中学校教諭の秋田県への1年間派遣と、これもテレビで報道されておりました見たんですけれども、秋田県では1年生から3年生を同じ数学の教諭が教えます。そういうことによって、教師間が教科部会で他学年、3学年の子どもの生徒の様子を交流して授業改善を図っていく。こういうことを沖縄に持って帰ったと聞いています。

このような事例を踏まえまして、いろいろ調べてみますと、文部科学省のホームページに「全国学力調査等を活用した学校改善に係る実践研究成果報告書」というのが載っています。各都道府県10校ほどの調査研究、この取り組みが載っておりまして、全部は見られなかったんですけど、その中で秋田県とか福井県とかよく紹介されますが、ここに載っていた沖縄県の取り組みを紹介したいと思います。

沖縄県は、学力調査が実施された平成19年度、全国平均よりもかなり低く、大阪府より低かったわけですね。ということは、もう全国で一番厳しい状況でした。その沖縄県が昨年度を見ますと、小学校では算数AB、国語ABとあるんですけども、確かその半分が全国平均を上回っていたと。今年度は全部上回っていました。少し驚きました。中学校では、まだ全国よりもかなり低く、非常に厳しい状況です。しかし、ホームページを見ますと、全国との差は、以前は10ポイント以上あったのが、今はもう9ポイント以下におさまっている。先ほど教育長が言いましたように、進んでいる県と大分幅が狭くなってきたと。やはりこういう県が頑張ってきているということを感じました。

沖縄県のホームページをさらに見ていきますと、平成25年1月ですね、やはり危機感を持っておられて、沖縄型授業づくり、にぬふぁ星メソッド。この「にぬふぁ」とは何かなと思いましたが、沖縄方言で北極ということで、北極星のメソッド。いわゆる1点を目指していきましょうという、県でそういうメソッドをホームページに載せられて、県全県で取り組んでおられました。それが表れてきたかなと。その中で少し思い出したのは、以前お話しました、私が南アフリカのヨハネスブルグ日本人学校の教頭として赴任している時に、その校長先生が沖縄県出身だったんですけども、帰国後、中学校の校長を退職されて、故郷の慶良間諸島という、一昨年、国立公園に指定されて、非常にサンゴのきれいな所の座間味村の教育委員をされて、あと教育長を10年近くされて、一昨年の3月に退任されて、その時挨拶状をいただきました。そこで印象的だったことを一部紹介したいと思います。「中でも在任中に始まった全国学力・学習状況調査の結果は、沖縄県はもとより全国平均を大きく上回ることができました。離島のデメリットをメリットに変えた我が村の意地と誇りと連携が学習意欲につながっていると思います」これを一昨年の4月にいただいた時に、沖縄が上回ったのか、この村がいいのかと思ったんですけども、いろいろ調べてみますと、上昇してきているなど。こういう挨拶を書かれた非常にふくよかな温かい校長先生だったので、その思いを思い出しながら、沖縄県を何とか底上げしようと頑張られたということをおもひまして、同時にずっとこの3年間見ていたんですけども、沖縄県が上昇してきているなど。やはりこの全国学力テスト、やはり全国の子どもたちの見えない学力を底上げする力があると思っています。それが2年ごとに行われる国際学力調査で、日本の子どもたちの学力が前進してきているということにつながっているかと思っています。

こういうことを振り返りますと、枚方市もいろいろ実施する課題があると思いますが、私はこの物心両面で、この沖縄の離島と比べたら、非常に資産がたくさんあると思います。やはり、さらに明確なビジョンをもとに、枚方の子どもたちの確かな学力、これは広い意味での学力ですね。豊かな心を育むといえますか、目標に向かって、教育委員会と各学校が、沖縄じゃないですけど意地と誇りを持って取り組んでいくと。私たち教育委員も頑張っていきたいなと思ってお

ります。

こういうことで、私の所感としたいと思います。

○奈良教育長 谷元委員、お願いします。

○谷元委員 私のほうからは、2点についてお話ししたいと思います。

1点目は、10月12日に、樟葉小学校で行われた小中一貫教育推進事業の公開授業、研究協議会に参加してきた内容についてです。

研究主題が「言語活動を高める授業づくり」、副題が「言語活動を取り入れた問題解決型学習を目指して」と、樟葉小学校、樟葉北小学校、楠葉中学校の3校が授業スタイルの研究を行いました。

1年生は図工の授業で、身の回りにある材料の並べ方を工夫し、並べる活動を楽しんでいました。動物園やテーマパークなど、材料を工夫して並べ、創造的な技能や発想、構想の能力を高める活動でした。1年生の創造力や発想に感心させられた授業でした。

4年生は体育の授業で、マット運動、腕立て横跳び越しの動き方や練習の仕方を知るという内容でした。ICTを活用し、先生が腕立て横跳び越しのポイントを動画に録り、授業の途中で手本として見せながら、授業を進めていました。

5年生は理科の授業で、振り子の実験を行っていました。振り子の長さを変えると、振り子の一往復する時間はどうなるかを調べようという内容でした。既習事項をもとに予想を立てながら、班で実験を行っていました。どの学年も目当てをきちんと提示し、グループで活動しながら話し合ったり、教え合ったりしていました。

指導案は3校の先生が集まり、共同で作成したということでした。その後、教科別研究協議会が1時間、全体協議会が1時間ありました。

教科別の協議会では、1. 教師の発問、2. 児童の発表、3. ノートやワークシートについて話し合われました。1では、児童の言語活動をどのように導いているか。2では、他者を意識して考えを伝えようとしているか。3では、他者を意識したわかりやすいノートになっているかについて、それぞれ意見が出されていました。

全体協議会では、教科別協議会の報告があり、その後、教育研修課の指導主事が指導助言をするという内容で、活発な協議が行われました。「子どもたちが主体的に取り組み、意欲的で深まる教材であった」、「子どもたちが生き生きと取り組み、先生の指示が適切で教え合いができていた」、「言語能力の育成に役立ち、考えを深めることができていた」という意見が出ていました。

課題としては、到達点をどうするか。考えの定着を図るための発表の工夫はどうすればよいかということなどがありました。指導助言をする指導主事が、学年に応じた能力についての共通理解を図ることや指導のスキルを高めるため、授業スタイルの研究をさらに深めることなど、参加している先生たちに問いかけながら、先生たちから出てくる意見をホワイトボードにまとめていくような協議会でよかったと思います。

1点気になったのは、教科ごとの研究協議会には、指導助言する指導者がいなかったことです。各教科で3校の先生が集まり、指導案を作成し、研究協議をしているのですから、それぞれに指

導主事や教育推進プランナーが指導助言に入ることがあってもよかったのではないかと思います。全体協議の中では、研究テーマの内容についての指導助言になりますので、そのところが残念な気がしました。

後日、指導助言に当たった指導主事と話す機会があり、聞いてみますと、授業者には終わってからもう一度学校に戻り、一人ずつ指導しましたとのことでした。指導主事も指導に関わってきた関係上、それぞれ指導助言をしたかったのだとわかり、よかったと思いました。

2点目は、小中学校教育用ICT機器整備事業についてです。

国は、第二期教育振興基本計画において、教育用コンピュータの整備目標を掲げています。また、子どもたちの情報活用能力の育成やアクティブラーニングの視点に立った新たな学びを進めるよう、ICT機器を活用していくことが重要であるとしています。

枚方市でも昨年度、小学校15校にタブレット型パソコンを整備し、残りの小学校、中学校の導入について検討すると聞いています。ぜひとも、各課が連携し、教育委員会を挙げて推進していただけたらと思います。

毎年、各学校には授業でのICT活用チェックリストを配布し、アンケート調査を行っていますが、私も教育推進プランナーをしている時に調査結果を見る機会がありました。調査結果を見ていつも感じたことは、学校によって、特に教員によってICT機器を活用することに差があるということです。以前に比べ、その差はかなり狭まってはきていますが、ICT機器をほぼ毎日活用している、週に1回以上活用しているという教員もいれば、1カ月に1回以上は活用している、ほとんど活用しないという教員まで、活用の幅が広いのが現状です。教科によって活用の頻度も異なってくると思います。活用さえすればよいというものでも、もちろんありません。子どもたちに興味・関心を持たせ、どのようなICT機器を、どのように授業に活用すればよいのか、工夫をしているかどうか、常にわかりやすい授業をしようと教員が心がけているかが大切であると思います。小中学校教育用ICT機器整備事業の目的は、アクティブラーニングなど、子どもたちが主体的な学びと情報活用能力をさらに育むため、より効果的な教育用ICT機器の整備を推進するとあります。次期学習指導要領を踏まえ、ICT機器を活用した授業づくりを進めるため、実践研究校を視察したり、枚方で実践研究校を指定したりするなど、より実践的なICT活用についての情報や教育的効果の検証が必要になるのではないかと思います。教員が授業で活用しやすい教材等の研究、今後さらに増えていくであろうデジタル教科書の効果的な使用方法など、研究しなければならないことはいろいろあると思います。ICT機器を活用した授業も授業の改善の一つです。教員が使えるかどうかではなく、子どもたちの学習意欲を引き出し、主体的な学びと学習の道具として、ICT機器を子どもたちがもっと活用できるような指導方法の改善をよろしくお願いいたします。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

五島スポーツ振興課長。

○五島スポーツ振興課長 それでは、案件1、枚方市立総合スポーツセンター使用料に関する規則

の一部改正について、ご説明いたします。

資料の1ページをお開きください。

まず、1の概要等でございますが、平成27年度に供用を開始した藤阪東町中央公園テニスコート、春日テニスコートへの指定管理者制度を平成29年4月に導入するため、枚方市議会9月定例会議会におきまして、枚方市立総合スポーツセンター条例の一部改正が可決されました。本条例の改正及び条例施行規則の改正に伴いまして、使用料に関する規則を必要な内容に改めるものでございます。

次に、2の改正内容等でございますが、3ページの新旧対照表をご説明させていただきます。

施設名称に関する第1条関係といたしまして、新旧対照表の右側、旧現行にあります使用料の減免を規定しております。

第5条につきましては、第5条2項中、藤阪東町1丁目5011番8内及び春日西町2丁目6番2号に設置するテニスコートを藤阪東町中央公園テニスコート及び春日テニスコートに改めるものでございます。

指定管理者制度に関する第2条関係の改正内容の説明となります。

4ページをごらんください。

旧規則第5条第2項中、（藤阪東町中央公園テニスコート及び春日テニスコートの使用にあつては、第1号及び第3号）については、指定管理者制度の移行に伴い、削除するものでございます。

また、枚方市立総合スポーツセンター条例施行規則の一部改正に伴う条項のずれの整理を行っております。

恐れ入りますが、2ページにお戻りください。

附則におきまして、本規則第1条の規定につきましては、施行日を公布の日からと定め、本規則第2条につきましては、施行日を平成29年4月1日とするものでございます。

以上、簡単ではございますが、案件1の提案理由の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件について、ご意見、ご質問等ありますか。

ご質問がないようですので、本件については、説明の聴取程度にとどめます。

それでは、本日の協議会の案件は以上となりますので、協議会を終了いたします。